

# 歩行者天国社会実験「まちなかホコテン」の実施結果について

## 1 社会実験の目的

まちの賑わいの創出効果や自動車流入抑制効果を把握するとともに、周辺の道路交通に与える影響などの課題について検証することにより、本格実施の実現可能性を探ることを目的として実施した。

## 2 社会実験の概要

### (1) 実施時期

平成 22 年(2010 年)3 月 21 日(祝)12 時～17 時

### (2) 実施区間(右図参照)

- ア 並木通りエリア(約 200m)
- イ 袋町「裏通り」エリア(約 140m)
- ウ 中の棚エリア(約 280m)

### (3) 実施主体

まちなかホコテン社会実験実行委員会

〔主な構成メンバー〕

広島市中央部商店街振興組合連合会、並木通り商店街振興組合、広島市中の棚商店街振興組合、袋町「裏通り」活性化委員会、広島市(事務局)



### (4) 開催イベント

ファッションショー(広島まちなかコレクション)、子どもたちによる歌とダンス、古本市、高校生による太鼓演奏 等

### (5) 調査内容

#### ア 実態調査

歩行者通行量調査、周辺道路の渋滞状況調査 等

#### イ アンケート調査

##### (ア) 調査対象及び調査方法

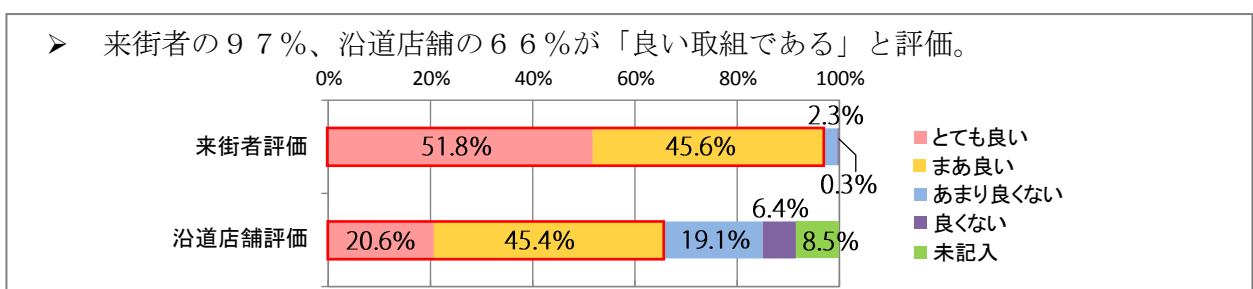
- ・来街者への街頭ヒアリング(回答数 309 人)
- ・沿道店舗への調査票の配布回収(回答数 141 店舗)

##### (イ) 主な調査内容

満足度、来街者の滞在時間や移動範囲の変化、来店者の変化、今後実施して欲しい取組 等

## 3 実施結果

### (1) 来街者及び沿道店舗の満足度



## (2) 賑わいの創出

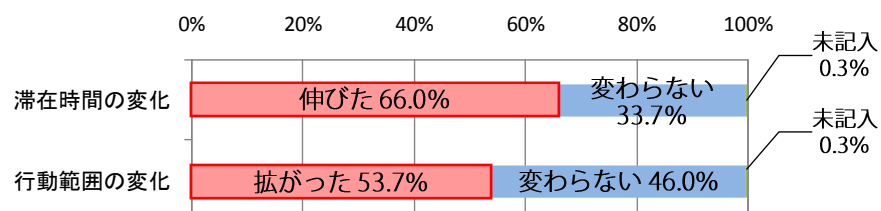
### ア 来街者数の変化

- 歩行者通行量は、歩行者天国実施エリア全体で、実験前の約1.8倍に増加。



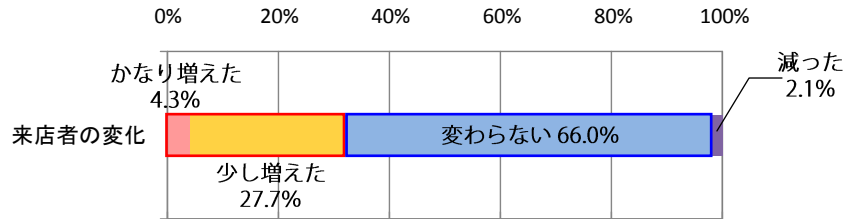
### イ 来街者の滞在時間と移動範囲の変化

- 滞在時間については、約7割が延長と回答。
- 移動範囲については、約5割が拡大と回答。



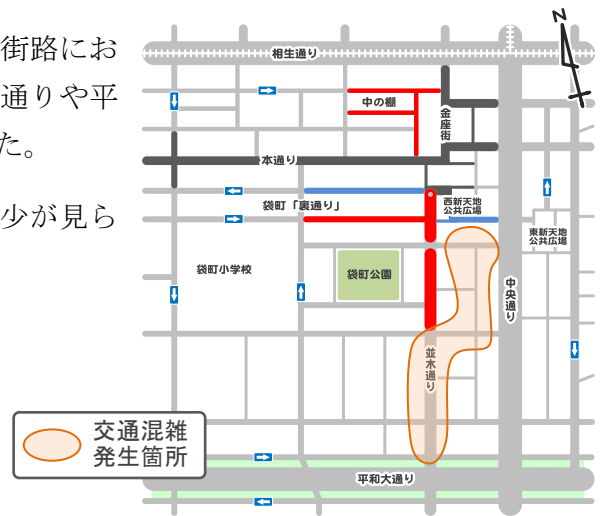
## ウ 来店者の変化

- 沿道店舗の約3割は来店者の増加を感じているが、約7割は変わらないと回答。



## (3) 渋滞状況等

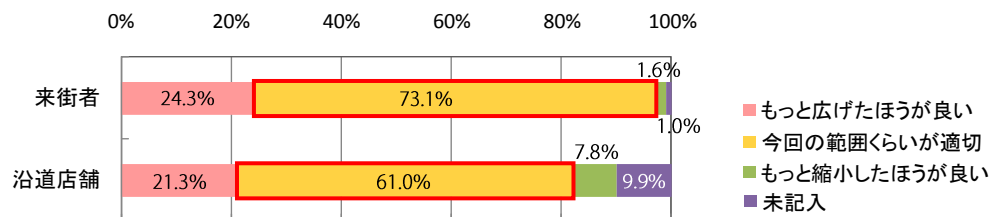
- 並木通り及び並木通りと中央通りの間の細街路において、交通混雑の発生が見られたが、中央通りや平和大通りなどの幹線道路への影響はなかった。
- また、一部の駐車場において、利用者の減少が見られた。



## (4) まちなかホコテンの実施規模について

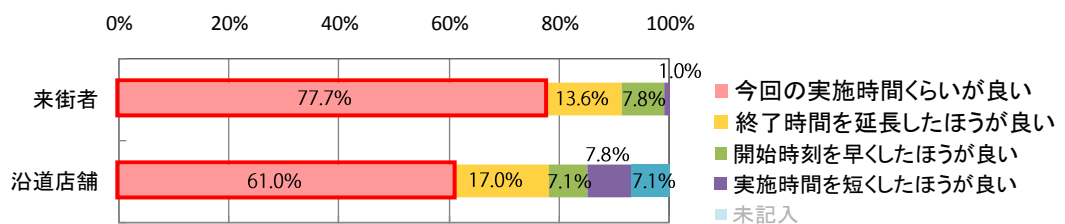
### ア 実施範囲

- 来街者の約7割、沿道店舗の約6割が「今回の範囲くらいが適切」と回答。



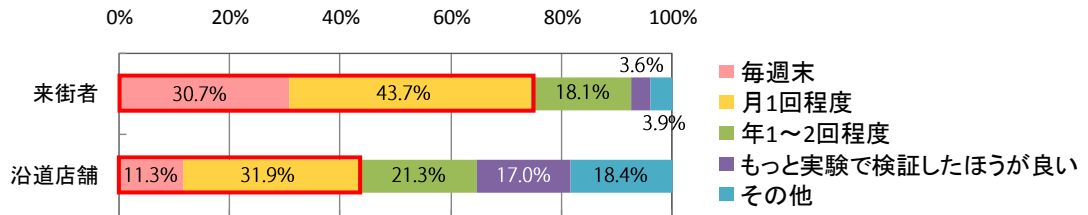
### イ 実施時間

- 来街者の約8割、沿道店舗の約6割が「今回の実施時間くらいが良い」と回答。



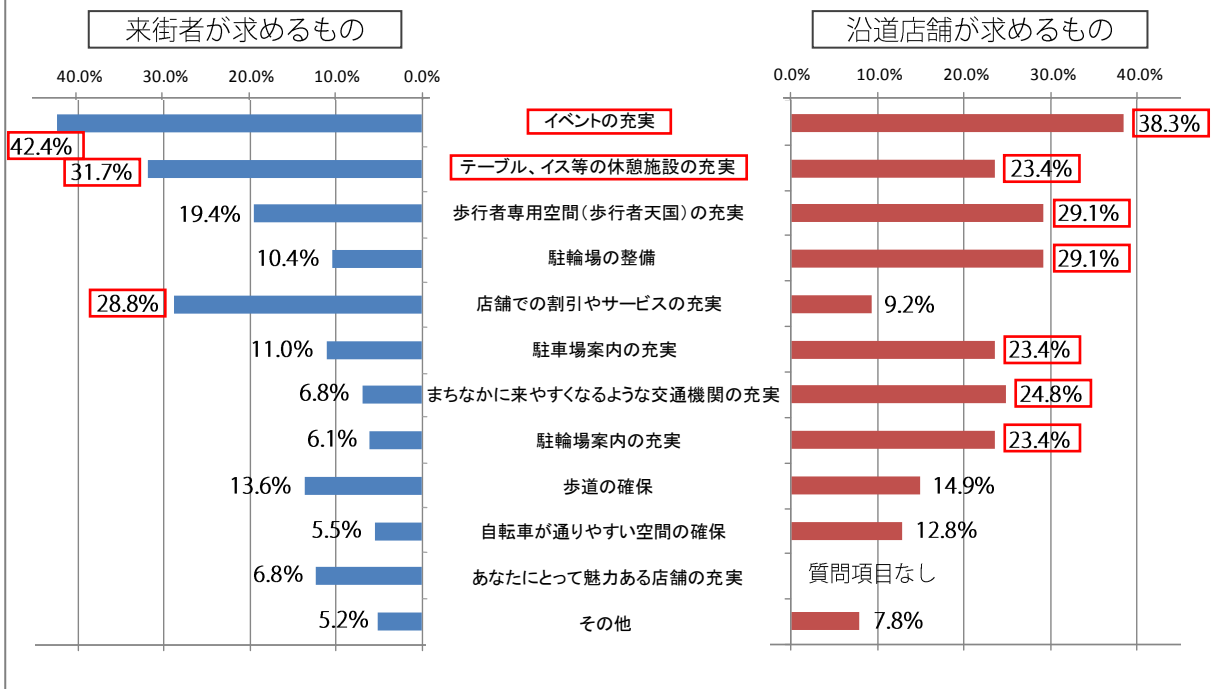
## ウ 実施頻度

- 来街者の約7割、沿道店舗の約4割が月1回以上の高頻度での実施を希望。



### (5) 今後実施して欲しい取組について

- 来街者、沿道店舗ともに「イベントの充実」「テーブル、イス等の休憩施設の充実」を求める声が多い。
- 来街者については、「店舗での割引やサービスの充実」、沿道店舗については、「歩行者専用空間（歩行者天国）の充実」や「駐輪・駐車対策」「まちなかに来やすくなるような交通機関の充実」を求める声も多い。



## 4 まとめ

今回の社会実験では、来街者や沿道店舗の評価は高く、まちの賑わい創出効果についても一定の効果が得られるなど、歩行者天国の有効性が確認できた。

その一方、社会実験の実施エリア周辺の細街路における交通混雑の発生、実施規模、イベントの充実、駐輪場・駐車場対策などの課題も明らかになった。

こうした課題を踏まえ、本年度は、交通規制内容や実施エリア周辺の通行車両の誘導方法の見直し、実施規模の拡大、沿道店舗と連携したイベントの充実などについて、関係者と協議調整を行い、一部内容を見直した社会実験を実施し、引き続き、本格導入に向けて検討を進める。